

■はじめに

2011 年 5 月、まだ東日本大震災の余波が生々しくあった。余震がつづいており、原発問題も紙面を賑わしていた。東京もコンビニエンスストアや地下鉄の照明は薄暗く、落ち着かない様相だった。そのような時に私たちは第 1 回めの会合をもった。

震災のショックは大きく、何もできないまま時間が流れていた。それでも何かしなければという思いに動かされ、実際には何ができるのかまったくわからないまま、その会合に参加した。おそらくそこに参加した人は、そうした共通の思いを抱いていただろう。それぞれ、高齢者や障害者、生活保護受給者、母子世帯等、いわゆる「社会的弱者」やかれらの生活を支えることに関心をもって研究をつづけてきた者たちであり、震災が、かれらへ与えただろう大きなダメージが気にかかっていた。

この際、打ち合わせ場所と、研究枠組みのアイデアを提供してくださったのが、国立社会保障・人口問題研究所の阿部彩氏だった。その後さまざまな事情により、この研究グループのメンバーには加わっていただけなかったが、阿部氏にはこの場を借りてお礼を申し上げたい。

この時以降、何度か話し合いを重ね、研究の進め方を相談してきた。その秋に申請した科学研究費事業に採択され、日本学術振興会より 2012 年度から 3 年間にわたる科学研究費補助金（基盤研究（B））を受けて研究活動を行うことが認められた。本報告書はこの 3 年間の成果である。

研究活動が認められたおかげで、私たちは年に何度も岩手県、宮城県、福島県といった被災地域、とりわけ沿岸部を訪れることができた。東北という土地は、新幹線停車駅や空港までは、時間的には遠いわけではない。しかしそこから沿岸部までは本数の少ない在来線か、あるいは自動車で、山をいくつも超えての道のりとなる。仙台以降の景色の違いや、2 両ときには 1 両編成の在来線に乗る際の心許なさには、なかなか慣れることができなかった。

3 年間で多くの方にお会いし、お話をうかがうことができた。自らが津波にのまれた経験や、ご家族が亡くなった経験を涙ながらに語ってくださった方もおり、その淡々とした語りにも圧倒され、体験や思いの大きさに口をつぐんでしまったこともあった。こうした経験はもちろん、後世に伝えていかなければならないことである。一方で、罹災証明を受けておらず、「被災者」としての支援をまったく受けていないという方にもお会いした。しかしその地域に居住し、それ以前の生活においても困難を抱えていた人にとって、震災は直接的、間接的に影響を与えていたことがみえてきた。

震災から 4 年が経過しようとしている現在、被災地をめぐる報道量は著しく少なくなり、新聞等には「復興」の文字が躍る。しかし、私たちの研究の対象とする人びとは、震災のダメージから必ずしも抜けだしているとはいえない。またさらに重要なことは、震災前の生活に戻ることが「復興」であるともいえないということだ。

つらい体験も含めインタビューにお答えいただいた方々、まだ落ち着かない時期に、ヒアリングに対応していただいた行政関係者や支援団体の方々に、深くお礼を申し上げたい。

また、質問紙調査実施に際して多大な協力をいただいたいわき市、いわき市社会福祉協議会、地域包括支援センターの方々、質問紙調査にお答えいただいたみなさま、多くのことを自由回答欄に綴っていただいたみなさま、さらには継続的なインタビュー調査に応じていただき、貴重な

お話をいただいたみなさまに、この場を借りて心からお礼を申し上げたい。ほんとうにありがとうございました。

今後も、何らかのかたちで研究活動を継続していきたいと考えている。本報告書をお読みいただいた方々からの、ご批判・ご教示をお願いしたいと思う。

2015 年 3 月 16 日 研究代表者 土屋 葉

■研究課題名

震災等の被害にあった「社会的弱者」の生活再建のための公的支援の在り方の探究

■研究種目

2012～2014 年度科学研究費補助金（基盤研究（B））

■課題番号

24330164

■研究組織

研究代表者 土屋 葉 愛知大学文学部 准教授
研究分担者 井口 高志 奈良女子大学生生活環境科学系 准教授
研究分担者 岩永 理恵 神奈川県立保健福祉大学 講師
研究分担者 田宮 遊子 神戸学院大学経済学部 准教授
研究協力者 四方 理人 関西学院大学総合政策学部 講師
研究協力者 田中 聡一郎 関東学院大学経済学部 講師

■交付決定額（配分額）

2012 年度：3770 千円（直接経費：2900 千円，間接経費：870 千円）
2013 年度：4030 千円（直接経費：3100 千円，間接経費：930 千円）
2014 年度：4030 千円（直接経費：3100 千円，間接経費：930 千円）
総額：11830 千円

■これまでの研究成果

2014 以降

土屋葉，「障害をもつ人への移動支援のあり方の検討——東日本大震災後の移動をめぐる現状に焦点化して」『文学論叢』150：125-146,2014 年.

土屋葉，「東日本大震災における障害をもつ当事者による／への支援活動」『東海社会学会年報』6：25-43,2014 年.

土屋葉，「障害者世帯への震災の中長期的な影響」障害学会第 11 回大会ポスター報告,2014 年.

岩永理恵，「震災・原発事故と生活保護／世帯」（東海社会学会第 7 回大会シンポジウム報告、『東海社会学会年報』7、掲載決定）

Yuko TAMIYA, “Disaster on Family and Care: Long Term Effect of the Great East Japan Earthquake on Women-headed Households”, Gender and Disaster Research and Policy

Forum, July 20. Science Council of Japan, 2014.

Yuko TAMIYA and Masato SHIKATA, “The impact of disaster on family and care: Focusing on Long Term Effect of the Great East Earthquake”, The 11th EASP Annual Conference, July 24. University of Hawaii, Manoa, 2014.

井口高志, 「「災害の影響」と「災害後の経験」に関する探索的研究——「震災等の被害にあった「社会的弱者」の生活再建のための公的支援の在り方の探究」調査から」国立社会保障人口問題研究所・研究会報告, 2014 年.

2013

土屋葉, 「障害をもつ当事者による／への支援活動——3.11 から現在まで」(東海社会学会第 6 回大会シンポジウム報告), 2013 年.

土屋葉, 「被災障害者への公的支援のあり方の検討」社会政策学会第 127 回 (2013 年度秋季) 大会報告, 2013 年

野際紗綾子・土屋葉・井口高志, 「ロングインタビュー 東日本大震災被災者支援における国際 NGO の活動: 調整・連携を通じて効果的な支援の実現を目指す 難民を助ける会・野際紗綾子に聞く」『支援』3: 236-274, 2013 年.

田宮遊子, 土屋葉, 井口高志, 岩永理恵, 「脆弱性をもつ世帯への災害の複合的影響: 住宅・就労・ケア・移動にかかわる問題に焦点をあてて」『季刊社会保障研究』49(3): 299-309, 2013 年.

田宮遊子, 「母子世帯と障害者世帯の脆弱性: 被災後の就業と所得保障」社会政策学会第 127 回 (2013 年度秋季) 大会報告, 2013 年.

井口高志, 「「被災の影響」にいかにアプローチするか?——「震災等の被害にあった「社会的弱者」の生活再建のための公的支援の在り方の探究」調査から」SPSN 研究会 第 96 回研究会, 2013 年.

2012

土屋葉, 井口高志, 岩永理恵, 田宮遊子, 「震災等の被害にあった「社会的弱者」の生活再建のための公的支援の在り方の探究 (2) —保健医療および福祉サービス給付についての検証から—」日本社会福祉学会第 60 回秋季大会, 2012 年.

岩永理恵, 田宮遊子, 井口高志, 土屋葉, 「震災等の被害にあった「社会的弱者」の生活再建のための公的支援の在り方の探究 (1) —阪神・淡路大震災と東日本大震災に際した生活保護運用についての検証から—」日本社会福祉学会第 60 回秋季大会, 2012 年.

*座談会

日時: 2014 年 9 月 13 日 (土) 13 時~16 時

タイトル: 「震災・原発事故の経験を当事者として考える、座談会」

場所: 市民フロア 横浜新都市ビル (そごう横浜店) 9 階 No.3 ルーム

日時: 2014 年 9 月 14 日 (日) 14 時~16 時 30 分

タイトル: 「障害をもつ当事者による 支援活動を考える—東日本大震災、それから—」

場所：愛知大学名古屋キャンパス L 講義等 1101 ゼミ室

プログラム：

講演 平下耕三さん（自立生活夢宙センター代表）

座談会 小野和佳さん（神奈川県障害者自立生活支援センター）

木村高人さん（愛知県名古屋市在住）

鈴木雄さん（岩手県釜石市在住）

平下耕三さん（自立生活夢宙センター代表）

*公開研究会

日時：2月28日（土） 13時～17時

場所：関西学院大学大阪梅田キャンパス K.G.ハブ スクエア大阪

主催：東日本大震災後の生活再建支援研究グループ、福祉社会学会

タイトル：「東日本大震災後の生活状況・生活再建に関する研究——継続的な調査から」

プログラム：

1. 東日本大震災後の生活再建支援研究グループの報告

土屋葉（愛知大学）「研究プロジェクト概要」

田宮遊子（神戸学院大学）・四方理人（関西学院大学）「いわき市仮設住宅住民調査報告」

井口高志（奈良女子大学）「いわき市調査自由記述報告」

2. 糟谷佐紀（神戸学院大学）「被災障害者の生活再建のための住宅条件」

3. 西野淑美（東洋大学）「釜石の地域特性と住宅再建への住民の語り―震災前の地域移動調査と震災後のA町内会追跡調査から―」

コメンテーター：齊藤康則（東北学院大学）